

# 高知県香美市土佐山田町における都市公園利用の現状と対策

高知工科大学 1160027 大寺 葉月

指導教員 五艘 隆志准教授

## 1.はじめに

### 1.1 研究の背景・目的

都市公園は様々な規模、種類のものがあり、都市環境の改善、都市の防災性の向上、地域の活性化等の役割がある。① 高知工科大学が所在する高知県香美市土佐山田町にある公園のうち、香美市が管理している都市公園は全部で7か所ある。② これらの都市公園の名称を表1に示す。

表1 香美市の都市公園

種類	名称
街区公園	西町公園
	黒土公園
	宝町公園
	旭町公園
近隣公園	土佐山田中央公園
	八王子公園
地区公園	秦山公園

本研究は、高知県香美市土佐山田町における都市公園の現状を調査し、そこから見出された問題点の対策をすることで都市公園をより有効に活用することの具体的な提案を示すことを目的とする。

## 2.土佐山田町の都市公園の現状

土佐山田町の都市公園の現状を確認するため、現地踏査、市役所訪問を実施した。併せて、土佐山田町における都市公園の普遍性および特異性を把握するために世田谷区、目黒区の都市公園との比較を行った。

### 2.1 現地踏査

土佐山田町の都市公園7か所のうち街区公園である旭町公園、宝町公園、黒土公園、西町公園の4か所と、地区公園である秦山公園の計5か所の現地踏査を行った。土佐山田中央公園と八王子公園は遊具がなく一般的な公園ではないため、踏査対象から外した。5月28日から7月2日の間に行った。

踏査で気づいた点を以下に記す。

- ① 西町公園は雑草が生い茂り、遊具が汚れているなど、整備が行き届いていなかった。(2015年7月2日)
- ② 4か所の街区公園は、利用者が一人もいなかった。
- ③ 秦山公園は設備が整っており、200人程度の利用者がいた。(2015年5月30日)

### 2.2 都市公園の管理実態に関するヒアリング

香美市役所建設課、財務課および教育委員会を訪問し、香美市の都市公園についてのお話を伺ったところ、以下のような状況とのことであった。

#### 2.2.1 管理者

公園管理者はいずれも香美市である。また、どの公園も週に1~2回、市職員が点検を行っている。

- ・秦山公園(土佐山田スタジアムを除く)の管理は、市建設課の所管であり、公園愛護会に委託している。
- ・秦山公園に併設されている土佐山田スタジアムの管理は、市教育委員会が直営で行っている。
- ・黒土公園、宝町公園、旭町公園の管理は市建設課の所管であり、かがみの育成園に委託している。

#### 2.2.2 支出

秦山公園(土佐山田スタジアムを除く)、秦山公園に併設されている土佐山田スタジアム、西町公園を除いた3か所の街区公園のそれぞれの年間維持管理費と収入を表2に示す。

これらの公園に関する収支計算は、年間収入の合計から年間維持管理費の合計を引くと、年間約3200万円の赤字となっていることが分かる。

表2 香美市の都市公園に関する年間収支額

	収入	支出	収入-支出
秦山公園(土佐山田スタジアムを除く)	1,000,000	22,000,000	-21,000,000
土佐山田スタジアム	559,650	10,224,928	-9,665,278
西町公園を除いた街区公園3か所	0	1,160,000	-1,160,000
合計	1,559,650	33,384,928	-31,825,278

キーワード：都市公園，街区公園，現状把握，利用者増加

秦山公園全体の建設費や土地代を含めた整備事業費とその支払い財源の内訳を表3に示す。18億5332万5000円の起債は2016年現在も返済途中である。

表3 秦山公園の整備事業費と支払い財源

(万円)			
整備事業費	補助金	一般財源	起債
415,990.5	174,842.9	55,815.1	185,332.5

### 2.2.3 利用者数

2016年現在、秦山公園（土佐山田スタジアムを除く）、街区公園ともに利用者数のデータは取得されていない。土佐山田スタジアムの2014年度の利用者数は14,520人であり、土日の利用率は90%以上である。

秦山公園（土佐山田スタジアムを除く）では、2005年に遊具が整備された後の2005年11月5日から2009年3月31日の間に入園者数の調査が行われた。この調査によると、秦山公園の年度別入園者数は2005年度（11月5日から3月31日まで）が59,478人、2006年度が149,950人、2007年度が132,553人、2008年度が131,988人である。この結果から計算される年度別の1日当たりの平均入園者数を図1に示す。平日の入園者数はほとんど変化がないが、休日の入園者数は減っていている。

また、市によると2016年現在の秦山公園の利用者数は120,000人程度であると推測されている。

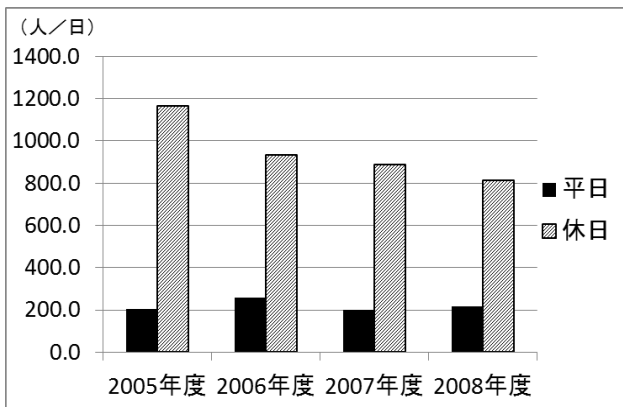


図1 秦山公園の年度別1日当たりの平均入場者数

### 2.3 土佐山田町と世田谷区、目黒区との比較

土佐山田町の都市公園の普遍性および特異性を把握するため、東京都世田谷区、目黒区の都市公園との比較をした。

土佐山田町と世田谷区、目黒区の面積、人口、公園

等総数、公園敷地面積<sup>2)3)4)5)</sup>より、公園敷地面積の割合と人口一人当たりの公園敷地面積を計算した。

計算式を以下に示す。

・公園敷地面積の割合(%)

$$= \text{公園敷地面積} \div \text{面積} \times 100$$

・人口一人当たりの公園敷地面積(m<sup>2</sup>)

$$= \text{公園敷地面積} \div \text{人口}$$

上記の内容をまとめたものを表4に示す。

表4 土佐山田町と世田谷区、目黒区の比較

	土佐山田町	世田谷区	目黒区
面積(km <sup>2</sup> )	116.46	58.05	14.67
人口(人)	20,184	880,318	271,556
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	173.3	15,164.8	18,511.0
公園等総数	11	524	148
公園合計面積(km <sup>2</sup> )	0.372	2.580	0.501
公園面積の割合(%) (公園合計面積/面積×100)	0.319	4.444	3.414
人口一人当たりの公園面積(m <sup>2</sup> /人) (公園合計面積/人口)	18.430	2.931	1.844

また、住民一人当たりの公園敷地面積の標準は市町村の市街化区域内では5m<sup>2</sup>以上、それ以外では10m<sup>2</sup>以上である。<sup>6)</sup>

2009年4月1日の時点で土佐山田町の市街化区域の面積の割合は1.932%<sup>2)</sup>であるため、土佐山田町全体が市街化区域外であると考えることとする。2011年4月19日の時点で世田谷区の市街化区域の面積の割合は97.86%<sup>3)</sup>であるため、世田谷区全体が市街化区域内であると考えることとする。同様に、目黒区全体が市街化区域内であると考えることとする。このときの土佐山田町と世田谷区、目黒区の住民一人当たりの公園敷地面積の標準に対する充足率を表5に示す。土佐山田町は標準を満たしており、世田谷区、目黒区は標準を満たしていないことが分かる。

表5 土佐山田町と世田谷区、目黒区の住民一人当たりの公園敷地面積の標準と充足率

	土佐山田町	世田谷区	目黒区
住民一人当たりの公園敷地面積(m <sup>2</sup> /人)	18.43	2.93	1.84
住民一人当たりの公園敷地面積の標準(m <sup>2</sup> /人)	10	5	5
充足率(%)	184.3	58.62	36.8

以上より、土佐山田町は公園敷地面積の割合が小さく公園に行きづらい環境であると考えられるが、住民一人当たりの公園敷地面積の標準は十分満たしているということが分かる。

## 2.4 土佐山田町の都市公園の問題点

以上のことより見出された問題点を以下に示す。

- ①街区公園の利用者が少ない。
- ②都市公園に関する収支が赤字である。

本研究では①の問題に注目し、街区公園の利用者増加について論じる。

## 3.街区公園の利用者の実態

2016年現在、市では街区公園の正確な利用者数の調査は行われておらず、利用者のデータはない。そこで街区公園の利用者の調査を行い、本研究のターゲットを明確にした。

### 3.1 調査方法

以下要領で街区公園の利用者調査を行った。なお、この調査は目黒区公園等利用実態調査<sup>9)</sup>を参考にしており、結果の比較も目黒区と行うこととする。

調査方法：6つの時間断面において利用者数をカウントし、利用者層（年齢）、利用内容、グループ構成、駐輪状況を記録する。以上の項目については調査員による判断とする。

実施場所：宝町公園、旭町公園、黒土公園、西町公園

実施日：2015年12月13日（日）、16日（水）

実施時間：7:30、10:00、12:30、14:30、16:30、17:30  
記録と移動の時間を考慮し、前後15分間を含めた計30分間を1回の実施時間とした。

調査員：計6名

### 3.2 調査結果

#### (1) 時間帯別利用者数

時間帯別利用者数の13日（日）の結果を表6、16日（水）の結果を表7に示す。13日は比較的暖かい時間帯である10:00～16:30に利用者が多い。16日は小学校の下校後である16:30～17:30に利用者が集中している。両日も朝早い7:30の利用者は少ない。

また、西町公園の利用者数が極端に少ない。

表6 時間帯別利用者数（13日（日））

	7:30	10:00	12:30	14:30	16:30	17:30	計
西町公園	0	1	0	0	0	0	1
旭町公園	0	0	2	2	5	0	9
宝町公園	0	0	1	0	12	0	13
黒土公園	1	11	3	6	5	0	26
計	1	12	6	8	22	0	49

表7 時間帯別利用者数（16日（水））

	7:30	10:00	12:30	14:30	16:30	17:30	計
西町公園	0	0	0	0	2	0	2
旭町公園	1	0	0	6	9	15	31
宝町公園	0	0	0	2	4	2	8
黒土公園	0	0	1	0	3	2	6
計	1	0	1	8	18	19	47

#### (2) 利用者層別利用者数

利用者層別利用者数（2日間の合計）と割合を、目黒区の結果<sup>9)</sup>と比較したものを表8に示す。全体の利用者数を比較すると、香美市：目黒区はおよそ1：120となっている。

表8 香美市と目黒区の利用者層別利用者数と割合

分類	香美市		目黒区	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
幼児	11	11.5	2,853	24.5
小学生	57	59.4	1,637	14.1
中高生	13	13.5	428	3.7
成人	7	7.3	5,544	47.6
60歳以上	8	8.3	1,176	10.1
合計	96	100	11,638	100

利用者層別利用者数（2日間の合計）の割合を目黒区の結果<sup>9)</sup>と比較したものを図2に示す。香美市は小学生、中高生の割合は目黒区より大きく、幼児、成人、60歳以上は目黒区よりも小さいことが分かる。香美市の場合、幼児と成人は泰山公園に利用者が集中しているため街区公園の利用者が少ないと考えられる。

ここで、香美市と目黒区の年齢層別人口割合<sup>4) 5)</sup>と利用者層別利用者数を照らし合わせると、60歳以上の人口割合は香美市が目黒区の約2倍であるにも関わらず、利用者数の割合は香美市のほうが下回っていることが分かる。

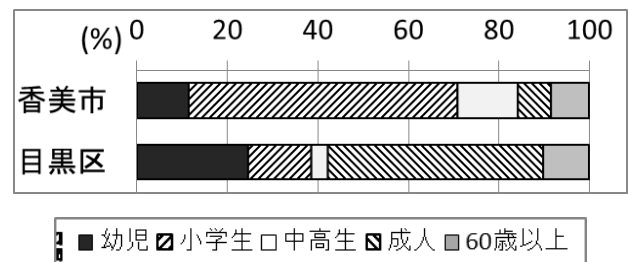


図2 香美市と目黒区の利用者層別利用者数の割合

### 3.3 ターゲット決定

以上の街区公園利用者調査の結果より、60歳以上の街区公園利用者を増やすことが最適であると考えられる。また西町公園は極端に利用者数が少なく、現地踏査の際に整備が行き届いていないことが確認されているため本研究の対象からは外すこととする。

これ以降においては、旭町公園、宝町公園、黒土公園の3か所の街区公園における60歳以上の利用者の増加の方法を考えることとする。

#### 4.街区公園の利用者増加方法の提案と検討

3か所の街区公園の利用者を増やすために、60歳以上の利用者増加の方法の提案、実現可能かどうかの判断、効果の検討を行った。祖母、香美市社会福祉協議会の方々、秦山ラジオ体操会の方々の意見を参考にした。提案を以下に示す。

##### (1) ラジオ体操

街区公園でラジオ体操を行う。毎朝習慣的に行うことで頻繁に公園に来てもらうことができると考えた。

秦山ラジオ体操会の方々は秦山公園から1km圏内に住んでいるため、街区公園がある地域から来ている人はいない。これより街区公園でラジオ体操を行う意義があると考えた。

社会福祉協議会の方は、ラジオ体操のみでは時間が短くわざわざ来る必要性が薄れると仰っていた。秦山ラジオ体操会ではラジオ体操の他に軽い筋力トレーニングや運動を30分程度行っており、街区公園でも同様のやり方で行うのが良いと考える。

##### (2) ウォーキング

2016年現在、香美市社会福祉協議会では週1回、1時間程度のウォーキング教室を行っている。これを、街区公園を集合・解散場所として開催することで街区公園周辺に住む人が参加し、利用者が増えると考えた。

社会福祉協議会の方は、開催しているウォーキング教室だけでなくそれぞれの地域で自主的に運動を行ってほしいと仰っていた。住宅地にある街区公園で行うことがその先駆けになると考える。

##### (3) 遊具使用方法説明

3か所の街区公園には子ども用遊具の他にストレッチ用の遊具が設置されている。これは老若男女問わず使用できる遊具であるが、街区公園利用者調査の際60歳以上の利用者がこれらの遊具を使用している様子は確認されなかった。そこでこれらの遊具の使い方の説明会を開き、ストレッチ用遊具の存在と使い方を知って頂くことが街区公園の利用者増加に繋がると考えた。

社会福祉協議会の方はストレッチ用遊具の存在を把握

していなかった。写真を提示したところ、遊具によっては高齢者が怪我をする可能性があるため十分配慮する必要があると仰っていた。また、説明をする際には効能や注意点も説明すると良いと仰っていた。

##### (4) 球技

公園をスポーツの場として利用し、ゲートボールの練習やペタンク等の小規模なスポーツを行うことを考えた。しかし旭町公園、宝町公園、黒土公園ではボール遊びが禁止されているためこれは実現不可能である。

以上より、有効な提案は(1)(2)(3)の3つである。

これらの提案を学生が主催するとした場合、香美市学生地域活動支援事業費補助金を活用することが可能である。香美市学生地域活動支援事業費補助金の概要<sup>4)</sup>は以下に示すようなものであり、上記提案内容は応募要件に合致する。

- (1) 学生の活動を教員が指導していること。
- (2) 構成員が概ね5人以上であること。
- (3) 高知大学・高知県立大学・高知工科大学に在籍する学生（学部生又は院生）が所属する団体（ゼミ・サークル等）
- (4) 地域福祉に関する事業を行うこと

こういった補助金を用いて表9のような活動を行うことが考えられる。

表9 提案の詳細

	実施頻度・時間	内容	準備物
(1)	毎週月～金曜午前6:30から30分程度	ラジオ体操、軽い筋トレ、運動等	ラジオ
(2)	週1回1時間程度	準備運動、ウォーキング、クールダウン	なし
(3)	月1回程度	遊具の使用方法、効能、注意点の説明	なし

#### 5.結論

土佐山田町の都市公園の問題は街区公園の利用者が少ないことである。60歳以上の利用者の割合が少なく、これを増やすことが重要であると考えた。その活用策としてラジオ体操、ウォーキング、遊具使用方法説明の3つの活動を、財源を含めた具体案として提案した。

#### 6.参考文献

- 1) 国土交通省都市局公園緑地・景観課 HP
- 2) 香美市の都市計画 2010
- 3) 世田谷区 HP
- 4) 香美市 HP
- 5) 目黒区 HP
- 6) 都市公園法施行令